

児童朝会 校長の話 3月14日

3月11日は11年前に東日本大震災があった日で、先週金曜日に、3年生から6年生は発生した2時46分に、黙祷を捧げましたね。大きな地震で2万人近い方が亡くなりました。11年経ちましたが、まだ解決していない問題がいろいろあります。大きな地震によってどんなことが起きたのか、皆さんにもお伝えしますね。

未だに避難生活をしている人が3万8000人くらいいます。そのうち福島県の方は3万3000人くらいです。福島県には福島原子力発電所がありました。原子力発電所は電気を作っています。皆さんが毎日使っている、電気、エアコン、タブレット、家庭でもいろいろな電化製品を使っています。その電気は発電所で作られています。原子力発電というのは、ウラン燃料を核分裂させてその時発生する熱を電気に変えて作っています。原子力発電所は水をたくさん使うので海に近くにありますが、東日本大震災が起きて、大きな津波が発生しました。10mくらいの津波が発生することを想定して作られていましたが、実際には13mの津波がやってきました。それによって原子力発電所は破壊されてしまいました。発電所は電源が落ちて、原子炉を冷やせなくなり、核燃料が溶け出しました。そして圧力がどんどん高くなり、ついに水素爆発しました。それによ

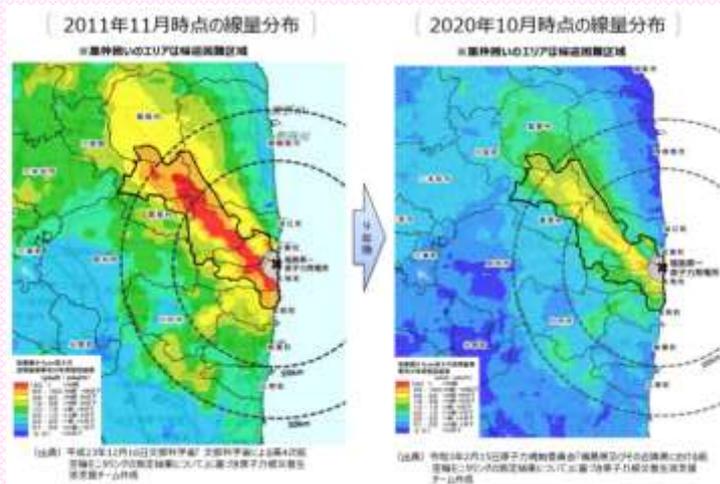
って放射性物質が周りに放出されてしまいました。放射性物質は風に乗って福島県の全域に広



がりました。更に雨が降って放射性物質は土や落ち葉に付着し、建物も汚染されてしまいました。土や落ち葉をかき集めたり、建物を洗浄したりして取り除く作業が何年間も続けられました。



地図を見てください。2011年11月には放射線量の高い地域が広がっていました。



2020年10月にはほとんど取り除かれて人が住めるようになりまし。少しずつ福島県に人が戻ってきましたが、福島原子力発電所のある双葉町は最後まで人が入れませんでした。やっと今

年の6月には住めるようになる予定です。

11年間、人が入れないままだった双葉町の様子を見てください。地震で壊れた家はそのまです。小学校も子供たちが通わなくなったので草がたくさん生えてしまいました。教室も見てください。帰りの支度をしているときに、何も持たずにあわてて避難したのでしょ。机の上や



中の荷物は放り出されたままです。

6年生の教室でしょう。「サッカー選手になる。はばたけ未来」と書かれた

作品がランドセルの上に乗っています。当時の6年生は11年経って

いるので23才になっていることでしょう。



避難した人たちが福島県に戻っていく目処は立ちましたが、原子

炉で溶け出した燃料は未だに全く取り出せていません。近づくると人が死んでしまうような

高い値の放射線量が出ているので、人は近づけません。ロボット作ったり小型カメラで様子

を撮影したりして取り出す計画を立てていますが、思い通りに進んでいません。取り出さなくてはならない核燃料は全部で880 tあるそうです。1日に10kg ずつ取り出しても241年かかる量です。50kg ずつ取り出せたとしても48年かかります。そして、取り出した核燃料をどこに捨てるかも決まっています。

災害や事故は「どうせ起きないだろう」ではなくて「もし起きたら」と、起きる場合を想定して準備することが大切です。そして、自分に関係ないから知らないではなくて、関心をもって解決するためにどうしたらいいかみんなで考えていくことが大切です。

さて、今日は暖かくて5月頃の気温になるそうです。桜の花芽もふくらみ始めました。来週には卒業式と修了式が行われます。もう一息で本年度も終わりですから、最後まで気を緩めず、みんなで力を合わせて生活していきましょう。